

2020年12月1日

幼保連携型認定こども園 **YMCA 保育園 12月えんだより**

12月の聖句 『学者たちはその星を見て喜びあふれた。』

<マタイによる福音書 第2章10節>

早いもので、2020年も12月を迎えます。今年は、年初より感染症の不安から始まり、未だにこの災禍の中にあります。目には見えない不安な日々と共にある中において、特に苦しむ方々を覚えて、希望の光が訪れますように祈ります。又、今年は様々な園の行事も変更を余儀なくされましたが、皆様のご協力とご支援を賜り、感謝を申し上げます。

さて、12月を迎え、クリスマスがやってきます。イエス・キリストの誕生を祝う日なのですが、皆様のご家庭におかれては、様々なクリスマスがあることと思います。今年は、お家で過ごされる方も多いのではないかと思います。幼子が生まれた日の出来事を少し紹介します。約2000年前に誕生したイエスは、暗黒の世に希望を見出す光として受け入れられたのでした。しかし、誕生を喜んだ人と不安を抱いた人がいます。喜んだのは生まれた場所から遠く離れた国の、占いの博士や羊飼いです。彼らは、希望を抱く光を感じたのです。しかし不安を抱いたのは、権力を奪われることを心配した王や貴族、律法学者等です。夜空に輝く一つの星を見て、新しい時代の始まりを見て取り、羊飼いや博士達は星に導かれて、数千キロの旅の末に、幼子イエスと出会い、ひれ伏して拝んだのです。当時虐げられた者たちのクリスマスの旅は、正に待ち望む歩みでした。「救い主がお生まれになる」という預言書だけを信じて行きついた先には、大切なそしてかけがえのない子どもを、神様は家畜小屋で誕生させて、飼い葉桶に寝かされたのです。それには深い意味があり、誰もがお祝いに集える場所、そこで真の救い主が生まれたと信じる者のみが集える場所なのでした。生まれた場所がどこであっても、そこで与えられた命は貴く愛らしく、大切なものである神様の思いが込められているのです。闇が深ければ深いほど光は、輝きを増します。闇の中で光を求める人に、神様は真の光を与えてくださったのです。その喜びが地上に満ち溢れることが、クリスマスの日の喜びとなったのです。

クリスマスは、心を豊かに育む大切なひと時となります。暗く冷たい心が、優しく温かい心となってクリスマスを迎えられるように願っています。子どもたちと迎えるクリスマスを通して、集った人々が馬小屋の飼い葉に寝かされたイエスの誕生を感じ取り、命の営みを大切にできる心となりますように祈ります。全ての人々に与えられているクリスマスの恵みを共に味わい、共にお祝いしたいと思います。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15章13節>

12月	乳児(0,1,2歳児)	幼児(3,4,5歳児)
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>* クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ。</li> <li>* 保育者や友だち、家族と一緒にクリスマスを喜ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* クリスマスの意味を知り、喜びを分かち合う</li> <li>* いろいろな人のことを思い、自分ができることを考える</li> <li>* 心を合わせて表現することを楽しむ</li> </ul>
讃美歌	きよしこのよる こども改74	